

目的	概要	詳細	平成 29 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(ア) 地域の医療・介護の資源把握</p>	<p>① 歯科医の訪問歯科診療の実施状況などについて</p>	<p>歯科衛生士の活動状況の把握、市民からのニーズ、積極的にやっている、または今後積極的に行っているという歯科医師がいるかなど、アンケートをとることができるか。</p>	<p>【高木委員】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問歯科診療の対応表：平成 29 年 7 月版は完成。医師会、薬剤師会に配布。 介護サービス事業者連絡会を通してケアマネ、介護事業所等に配布予定 2. 対応表と各医院のホームページ、歯科医師会ホームページの医院情報については、チェック、確認し順次修正。 3. 衛生士会との連携やフリーの歯科衛生士の発掘、専門的な口腔ケアができ、施設職員や家族に指導できるような人材の養成に取り組みたいと考えている。人材養成は難しいが、研修会の情報を共有し、各々のレベルアップを試みている。 4. 将来的には、歯科衛生士がいない歯科医院の派遣依頼にも対応できるよう人材バンクのようなものを整備できるとよい。人材バンクは理想であるが、難しい状況。 ⇒ 歯科衛生士等が活躍できる場所、機会の確保 <p>【船橋委員】</p> <p>かかりつけ歯科が決まっていない方、もしくはかかりつけ歯科が訪問歯科診療非対応であった方から申し込みや問合せがあった場合、小牧市歯科医師会やその他関係機関と連携し、在宅での歯科診療が行えるようサポートを行っている。歯科医師会全体での一律の対応はなかなか難しいと思うが、在宅医療の推進に向け環境整備を図っていかねばならない。また、歯科治療や口腔ケアの必要性、実施方法等について関係機関と共有し、連携の強化を図りたいと考える。</p>	<p>【高木委員】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対応表：平成 29 年 7 月版は配布済 2. 医院情報については、チェック、確認中 3. フリーの歯科衛生士の発掘は困難。人材養成も難しい。 4. フリーの歯科衛生士の発掘も難しいので、人材バンクは困難 ⇒断念 	<p>【高木委員】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 30 年 7 月版は配布対象箇所を増やしていく。 2. 継続実施する。 3. 衛生士会と定期的に会議をもち、情報交換、研修会、情報の共有、個々のレベルアップ、連携を行う。 4. 断念 <p>新規</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サロンへの出前講座の実施検討 2-a. 介護施設職員への口腔ケア等、研修機会の希望の有無 2-b. 訪問診療ニーズの把握を調査、検討 	<p>高木委員 船橋委員</p>

進捗状況報告シート

資料 1

目的	概要	詳細	平成 2 9 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(ア) 地域の医療・介護の資源把握</p>	<p>② 薬剤師の訪問薬剤管理指導の実施状況などについて</p>	<p>訪問薬剤管理指導の活動状況の把握（施設／在宅など）、麻薬の取扱い、中心静脈栄養、I V H機材、ポンプ、24時間対応、日曜日の対応を積極的に行っているという薬局があるのかなど、アンケートをとることができるか。</p>	<p>【木全委員】 アンケートの結果は、市や包括、保健センターなどに設置して活用していただきたい。 49 保険薬局のうち 40 薬局は在宅患者訪問薬剤管理指導の届出を出している。実際に在宅の受入れができる薬局は 16 薬局で、このうち 24 時間対応できる薬局は 8 薬局である。 ※ 愛知県の指定の条件が厳しくなり、昨年度より減少。</p>	<p>【木全委員】 49 保険薬局のうち 40 薬局は在宅患者訪問薬剤管理指導の届出を出している。 実際に在宅の受入れができる薬局は 16 薬局で、このうち 24 時間対応できる薬局は 8 薬局である。</p>		<p>木全委員</p>

進捗状況報告シート

資料 1

目的	概要	詳細	平成 29 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(ア) 地域の医療・介護の資源把握</p>	<p>③ 各介護保険サービス事業所についての情報共有について</p>	<p>各事業所において、巡回型、吸引行為、経管栄養、インシュリン注射、吸引、膀胱カテーテルの交換、ガン末期患者や困難ケースの受け入れ、看取りなど、専門性や得意分野などの整理ができるか。</p>	<p>事業所一覧については各事業所の医療対応情報を加えた形で平成 28 年 7 月に完成した。市内の介護保険事業所に配布するとともに、市やふれあいセンターの窓口を設置している。今後も年 1 回の刷新を予定しており、新しい情報の提供に努める。</p> <p>事業所一覧の医療機関への配布は、ダイジェスト版であれば配布は可能である。</p> <p>⇒ 医療機関として、どの程度の情報が必要なのか、活用方法について検討が必要。 また、今後は医療機関の情報も加えていきたい。</p>	<p>【伊藤委員】 昨年 12 月に介護保険サービス事業者連絡会から事業所一覧（ダイジェスト版）を市内医療機関に送付。</p>	<p>【伊藤委員】 今年度は冊数に限りがあり、歯科医院や薬局への配付はできなかった。</p>	<p>伊藤委員 大野委員 田中委員 地域包括</p>

目的	概要	詳細	平成 29 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(九) 医療 介護関係者の研修</p>	<p>④ 研修について</p>	<p>i) 医療関係者において、歯科、薬局を含めて研修を行えると良い。</p>	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「医師とあゆむ勉強会」は在宅医療推進委員会後、開催し医師の参加も目的にしている。(救急救命士による救急車を呼ぶということ・高齢者に関する運転免許制度・葬儀社によるグリーフケア・施設全般・在宅医療導入研修として終末期に関わる援助。12 月皮膚排泄ケア認定看護師・2 月訪問看護師・摂食嚥下サポートチーム立ち上げと講習会) である。 ・医師と各関係機関との意見交換会は今後に向けて有意義だった。 ・在宅医療に関してアンケート調査結果(公表可)は医療介護関係機関に情報提供する。 ・医師会にて副科(耳鼻咽喉科、眼科に限る)の紹介マニュアルを作成し 3 件紹介した。今後も継続する。 ・在宅医療を行うにあたり訪問看護の必要性は高まっている。情報提供し連携を強化。 ・クリニックの医師への訪問診療の依頼は課題が多い。訪問看護ステーションなどとの関係強化などの施策が必要である。 ・研修会への医師の参加増及び関係機関の研修会、勉強会が重ならないような対策が必要である。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「医師とあゆむ勉強会」は、1 2 月、2 月に予定通り開催した。平成 30 年 5 月に今の形式で開催予定。その後については、市と調整中。 ・在宅医療に関するアンケート調査(公表可)については、医療・介護関係機関に情報提供を行った。 ・医師会にて作成した「副科紹介ツール」は継続する。 ・訪問看護ステーション概要一覧については、小牧市医師会 A 会員に郵送し、情報提供を行った。連携が強化され、医師の負担軽減になると良い。 ・勉強会から立ち上がった「小牧摂食嚥下サポートチーム」～小牧ごっくんサポート～は、こまきつながるくんを情報共有ツールとして活用しながら活動予定である。 	<p>【磯村委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小牧市医師会在宅医療サポートセンター分室」は、平成 30 年 4 月から「小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター」に名称が変更になり、事業を行うことになる。 これまでの医療に加え、介護に関する連携強化も推進することになることから、関係機関の協力が必要であると考える。 	<p>磯村委員</p>

目的	概要	詳細	平成 29 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(カ) 医療・介護関係者の研修</p>	<p>㊦ 研修について</p>	<p>ii) 地域包括支援センター、ケアマネジャー、訪問看護がお互いに勉強をできるような研究会を行えると良い。</p>	<p>今年も 10 月 11 日に「訪問看護とケアマネの合同研修会」が開催された。 (52 名参加。うち、訪問看護師 9 名) 今後、更に医療依存度の高い在宅療養者が増加しているなかで、訪問看護師とケアマネとの情報共有は大変重要であるため、定期的な合同研修会開催が必要である。 ⇒ 研修への訪問看護師の出席率が低い状況である。参加できるような対策が必要である。</p>	<p>【志津委員】 1 月 25 日に、「それぞれの行き方、逝き方 ～本人の意志に寄り添う支援のあり方を考える～」が開催された。 (87 名参加。 うち、訪問看護師 14 名) 多死社会と言われるなかで、訪問看護に関わった 2 事例を通して、それぞれのグループに分かれ、意見交換を行った。今回は、訪問看護師も参加人数を確保でき、12 グループでのグループワークが出来たため、より意見交換しやすい場となったと思われる。 2 月 14 日にラピオにおいて、「在宅医療推進には訪問看護が欠かせない」をテーマに勉強会を開催した。(43 名参加) 昨年に引き続き、訪問看護の内容をニーズに合わせながら説明するとともに、実際の事例をあげながら、料金についても説明した。</p>	<p>【志津委員】 在宅で生活を行うにあたり、訪問看護が医療、介護の橋渡しになるよう訪問看護について発信していくとともに、皆さんの意見を集約し、訪問看護間のレベルアップのため、勉強会などを開催するなど、実施する必要がある。 訪問看護は、医療保険と介護保険での訪問があり、複雑であるため、医療と介護保険でできることが異なるのではないかと思われていたり、介護度により週何回訪問、何時間訪問できるかなどの質問があった。アンケート等の質問からも、もう少し分かりやすく、説明する必要があると思われるため、今後も訪問看護が利用しやすくなるよう、訪問看護について多職種への説明を継続する必要がある。</p>	<p>志津委員 大野委員 地域包括</p>

目的	概要	詳細	平成 29 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(九) 医療・介護関係者の研修</p>	<p>㊦ 研修について</p>	<p>ii) 地域包括支援センター、ケアマネジャー、訪問看護がお互いに勉強をできるような研究会を行えると良い。</p>	<p>今年も 10 月 11 日に「訪問看護とケアマネの合同研修会」が開催された。 (52 名参加。うち、訪問看護師 9 名) 今後、更に医療依存度の高い在宅療養者が増加しているなかで、訪問看護師とケアマネとの情報共有は大変重要であるため、定期的な合同研修会開催が必要である。 ⇒ 研修への訪問看護師の出席率が低い状況である。参加できるような対策が必要である。</p>	<p>【大野委員】 11 月 30 日に「薬剤師とケアマネの座談会」を開催。37 名参加（うち薬剤師 10 名）。お互いがどのような役割ができるのか意見交換し、相互理解が深まった。 2 月 14 日ケアマネのためのリハビリテーションの実践知識 Part2 を開催。 28 名のケアマネが参加。小牧市リハビリテーション連絡会からも多数参加があった。 在宅生活におけるリハビリの必要性や効果について学習した。 2 月 16 日に開催された四者連絡会において研修日程などを協議したが、未だ決定していない。 ケアマネが参加しなければいけないという研修会など多数あり、業務に支障をきたすことのないように、研修回数を減らすなど検討が必要である。</p>	<p>座談会を初めて開催し、お互いのことを理解できたことで、今後のチームケアに広がり期待できる。 今回は呼吸器、口腔、嚥下などのリハビリについて学習。新たな知識を得る機会となった。</p>	<p>志津委員 大野委員 地域包括</p>

進捗状況報告シート

資料 1

目的	概要	詳細	平成 29 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(九) 医療・介護関係者の研修</p>	<p>㊦ 研修について</p>	<p>iii) 日程が重ならないように調整が必要。</p>	<p>平成 28 年度から介護支援専門員連絡協議会のホームページに情報共有用のスケジュール表を掲載している。</p> <p>ホームページの閲覧は、毎月 70 件ほどあるが、どの程度活用されているかは不明である。</p> <p>⇒ スケジュール情報について、関係機関に周知する必要がある。</p>	<p>【田中委員】</p> <p>2 月 16 日に包括、事業者連絡会、ケアマネ連協、市、在宅医療サポートセンターで会議を開き、平成 30 年度の研修の開催数と時期について調整した。</p> <p>その中で主要研修を月 1 回程度とし、その他の研修については各自が取捨選択することを案内することにした。</p> <p>情報共有用のスケジュールが掲載されているケアマネ連協ホームページは月平均 185 件のカウントがある。</p>	<p>【田中委員】</p> <p>多機関が研修を開き、ケアマネ、訪問看護については研修が過剰な状態になっている。関係機関が類似のものは共同開催にするなどの調整が必要。</p>	<p>田中委員</p>

進捗状況報告シート

資料 1

目的	概要	詳細	平成 29 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(主) 地域住民への普及啓発</p>	<p>(5) わた史ノートの普及・啓発について</p>	<p>わた史ノートをただ渡すだけでなく、包括やケアマネジャー、民生委員、区長など、話すことのできる人を養成できると良い。</p>	<p>【江口委員】 平成 29 年 4 月から南部地区に地域包括支援センターが開設したことを踏まえ、わた史ノートを一部修正し、増刷した。 来年度以降、わた史ノートの普及啓発を目的として、市出前講座のメニューに追加し、地域包括支援センターが中心となって普及・啓発を図る予定である。 それに先立ち、小牧市民病院にご協力いただき、改めて、わた史ノートについての講義を行っていただくとともに、2 月に開催される寿学園において、わた史ノートについての講演を行っていただく予定である。 ⇒ 民生委員のアンケート結果を分析し、今後の活用について検討する必要がある。</p>	<p>【江口委員】 平成 30 年 2 月 9 日に寿学園において、わた史ノートについての講演を実施した。 (参加者約 450 名) また、次年度以降、市出前講座で普及啓発を図るため、2 月 13 日に、小牧市民病院にご協力いただき、わた史ノートについての講義を行っていただいた。 平成 30 年度末に改訂予定の中学社会科副読本「小牧」にわた史ノートの啓発ページを盛り込んでいただくよう依頼。</p>	<p>【江口委員】 小牧市民病院のご協力のもと、受講したわた史ノートの講義を活かし、多世代（健康な一般市民やひとり暮らし高齢者など）に対し、普及啓発するため、計画的に実施していく必要がある。</p>	<p>渡邊委員 大野委員 地域包括 江口委員</p>

目的	概要	詳細	平成 29 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進</p>	<p>㊦ 療法士の取り組みについて</p>	<p>療法士の今後の取り組みについて、具体的に誰がどのようにやっていくか計画を出せると良い。</p>	<p>【大橋委員】 4月 22 日小牧市リハビリテーション連絡会総会、勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝腰スッキリ体操：13 回 ・身障意見交換会 ・小牧市版介護予防リーダー 養成研修、講師 ・介護教室（味岡） ・在宅医療・介護連携研修会 ・美姿勢 EX（一般向け） <p>予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝腰スッキリ体操：4 回 ・寿学園にて講演 ・介護予防関係者への出向 ・つどいの場立ち上げの手伝い ・こまき山体操の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員向け講演 <p>・各療法士の人材確保や事務局の負担軽減が必要である。</p> <p>・市とリハビリテーション連絡会、情報センターとの連携方法を検討する必要がある。</p>	<p>【大橋委員】 平成 30 年 4 月 21 日小牧市リハビリテーション連絡会総会、勉強会を開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝腰スッキリ体操：16 回（今年度、すべて終了） ・介護教室：一般企業から行政へ移行 ・美姿勢 EX：自分も子供も良い姿勢に改名 ・サロンの立ち上げ支援 ・こまき山体操指導マニュアル（仮）作成 ・第 2 回介護支援専門員向け講演（2 月 14 日） ・事務局経費：次年度以降、愛知県士会より助成予定 ・講演、勉強会資料を情報センターにて集約 人材紹介、派遣も検討中 	<p>【大橋委員】 小牧市リハビリテーション連絡会の会員加入、事業への参加を促す</p> <p>現在 5 名で担当 参加可能な会員を増やす</p> <p>講座内容を若手に伝達</p> <p>”</p> <p>各サロンの特性に合わせる事が大切だが、難しい 他の健康体操等の違いをどのように表し、伝えるか課題 医療機関従事者の参加を促す</p>	<p>大橋委員</p>

進捗状況報告シート

資料 1

目的	概要	詳細	平成 29 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
(工) 医療・介護関係者の情報共有の支援	(ア) 病院とケアマネジャーの連携について	病院とケアマネジャーの連携について連絡方法など、意思の疎通を図っていると良い。	【田中委員】 8月 28 日に病院と在宅の連携を考える研修会を実施した（66 名参加） 昨年の研修から一年が経過したところでの報告をいただいた。医療と介護の連携シートや ICT などを使って連携をとることの重要性を再確認した。 ケアマネから主治医への連携の働きかけが充分でない。ケアマネが主治医へ連絡することを実践していきたい。	【田中委員】 平成 30 年度の介護報酬の改定に医療・介護の連携について加算がさらに強化された。 この機会に、ICT や連携シートの活用についてさらに周知を図りたい。		田中委員 大野委員
			【菅沢委員】 平成 29 年 4 月から 9 月で 81 件のシート活用。 入院直後に情報交換ができ、早期より退院支援の介入につながりつつある。 8月 28 日介護連携シートの活用状況について報告会を実施。意見交換が出来た。 市町で連携シートの様式が違うため、統一が必要である。 要支援者の患者の情報共有の検討が必要である。看護サマリとの整理が必要であり、運用の再検討が必要である。	【菅沢委員】 平成 29 年 4 月から平成 30 年 2 月で 129 件の連携シートが活用された。 院内においては、この 2 年間を通して病棟看護師に周知され、患者の状況に応じて看護要約を添付するなどしている。	【菅沢委員】 平成 30 年度診療・介護報酬改定により、入院時情報など連携強化がされる中で、連携シートの活用を更に積極的に行いたい。	菅沢委員

目的	概要	詳細	平成 29 年度第 2 回協議会での報告内容	現在の進捗状況と今後の予定	実施に向けての課題	担当
<p>(工) 医療・介護関係者の情報共有の支援</p>	<p>(8) ICT の構築について</p>	<p>小牧市において、統一した形で ICT を構築できると良い。</p>	<p>【江口委員】 地域の医療や介護等の関係者が連携を図り、サービス提供等の状況について情報共有を図ることを目的に、ICT を活用した医療・介護連携システム「こまきつながるくん連絡帳」を平成 29 年 10 月 1 日から導入した。 導入に先立ち、協議会メンバーを中心にトライアルを実施し、その運用実験の結果を踏まえ、利用に際しての課題を整理した。 その後、計 6 回にわたり、操作説明会を実施し、延べ、215 名の方に受講していただいた。 【登録者の状況】 ・登録施設数：38 か所</p> <p>⇒ 機能を使いこなすには、使っていくことが重要である。ケアマネジャーを中心に多職種が関わった事例を実践することが必要である。 また、市はその進捗管理を行うこと。 情報連絡も利用できるシステムであり、その活用方法について、検討が必要である。</p>	<p>【江口委員】 ICT を活用した医療・介護連携システム「こまきつながるくん連絡帳」の活用促進に向け、必要がある場合は、事業所等に出向き、設定操作の説明を実施し、登録者増を目指した。 【登録者の状況】 ・登録施設数：73 か所 (詳細は、資料 2 参照)</p> <p>また、ケアマネジャー、地域包括支援センターが中心に、具体的に 9 名の症例が情報共有されている。</p>	<p>【江口委員】 依然として、登録施設数が少ない状況であり、関係機関の協力のもと、登録率を上げる必要がある。 また、ケアマネジャー、地域包括支援センターを中心に 1 事例でも多く事例を積み重ねるなかで、未利用者等に対して、利用のメリットなどを伝える中で、普及させていく必要がある。</p>	<p>江口委員</p>